

## 資料室だより 44

**Recent Researches in the Music of the Baroque Era, 87:  
Chiara Margarita Cozzolani: Motets (Ed.by R.L.Kendrick) A-R Edition 1998**

資料室だより 40 で、イタリアの女子修道院で作曲された修道女の宗教曲をご紹介しますが、その中で触れたコッツォラーニ（ミラノのベネディクト会修道女）の作品のクリティカル・エディション（学問的校訂楽譜）が Recent Researches のシリーズで発行されました。実用的でもあり学問的でもあるすぐれたエディションだと思います。

この巻は Candace Smith をはじめ、女子修道院の文化を研究する研究者たちに捧げられています。

コッツォラーニの生涯と作品については最近までに少しずつ明るみに出てきました。彼女は 1602 年 11 月 28 日ニマルガリータの名前で洗礼を受けていることから 1602 年生まれとされます。ミラノの裕福な家庭に育ち、おそらくは隣に住んでいた Rognoni の一家（Ricardo Rognoni, Francesco Rognoni, Giovanni Domenico Rognoni）から音楽の手ほどきを受けたと推察されます。1619 年に多額の持参金とともにすでに姉が入っていたベネディクト会の聖ラーデゴンダ修道院に移り住み 1620 年、歌隊の修道女として終生誓願を立て、キアラという修道名を得ます。後に修道院長も務め、院内で指導的な存在になっていきます。1676 年以降、修道院の名簿から名前が消えるのでおそらくこのころに没したと思われます。彼女の 2 人の姪も歌隊としてこの修道院に入会し、次の世紀まで生きます。

現存する彼女の作品は 1640 年から 1650 年までの短い期間に書かれています。これは修道者としての何らかの制約があったのか、経済的事情かは詳らかではありません。

処女出版である *Primavera di fiori musicale* は大部分は消失していますが、残る何曲かによって、彼女が 17 世紀中頃のミラノにおける傑出した作曲家であったことが伺えます。大規模モテットも残っていますが、私が興味深く思うのは 50 年に出版されている *Salmi a otto voci concertati* に所収されている *Maria Magdalena stabat!* です。これは明らかに *Stabat Mater* を意識した題名ですが、十字架のもとにたたずむ聖母に対して、イエスの墓の前に立って嘆くマグダラのマリアが劇的に歌われます。「おお、私の光よ、あなたはどこ？ おお、私の愛よ、あなたはどこ？ おお、私の命よ、あなたはどこ？ 来てください、愛する人よ、あなたへの愛ゆえに私は死ぬほど悶え苦しんでいます」というマグダラのマリア（ソプラノ）独唱に対して天使の合唱が慰めます。「なぜ死んだ者の中に生きている者を探るのですか？ 彼はガリラヤに行かれた。アレルヤ！ マリアよ、もう泣くのはやめて喜びなさい」、そして大合唱で「喜ぼう、歌おう、アレルヤと言おう、愛そう、アレルヤと歌おう」、と音楽は嘆きから復活の喜びへとドラマティックに移っていきます。

2001/12/20

コッツォラーニの作品全体のテキストは1630年以降の北イタリアの信仰書や同時代の霊的思想を色濃く反映していると言われますが、修道院から生まれた作品は音楽と神学の両方からのアプローチが必要だと思います。

(杉本ゆり 記)